

諸家系譜

三

大正官文庫
和書門
三三九
架函冊類

第百八十八函
中

共二百五十四

內閣文庫
和書
三三九
架函冊類

共八十七

內閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225 (171)
函號	156 23



三ノ巻
小室宗茂後子出

系譜

清和源氏
八百之孫也
○ 孫自其子也

たな
源氏

宗茂
小室宗茂後子出
仲氏

信和源氏

仲成氏 平右井上

高祖父 井上房泉 信室 滋 松平 大 信 文
而 年 喜 列 三 秋 之 行

家之致 井新 八 今 彦 明

習 氏 三 子 巴

井上房泉 信室 男

信瑞 仲成 子 西 具

母 喜 子 子

元文 三 年 年 有 月 十 日 生 喜 子 由 致

松平 大 信 文 方 子 也

元禄 三 年 年 有 月 十 日 新 年 吉 日 所 有 常 直 物 百 五 十

元禄 四 年 年 七 月 十 日 生 喜 子

元禄 六 年 年 七 月 十 日 生 喜 子

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

信 文 仲 成 子

喜 子 之 母

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

喜 子 之 母 二 月 十 日 一 日 入 之 自 備 子 也

言此女子の五十一の年頃嫁年を
言ふ所ありて其年 行目也
子孫を以て其年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
女 子 仲 澤 信 久 妻

信 封

ハのチ

母 仲 澤 氏 女 妻 年

言ふ七子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは

言此女子の五十一の年頃嫁年を
言ふ所ありて其年 行目也
子孫を以て其年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
女 子 仲 澤 信 久 妻

信 封

ハのチ

言此女子の五十一の年頃嫁年を
言ふ所ありて其年 行目也
子孫を以て其年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは
世を三子の年より結入るは

定政土之弟也。有冲河氏焉。

長

長子也。是為沖河氏也。

源

源氏。公孫孫也。源氏也。

源

大源。是為沖河氏也。中源也。

免

系忠

中津藩主

主政上之

者若尾振行將軍之臣 中津藩主

由法善教之始 中津藩主

杉原藩主内意故十年の改年

事恐ゆふまじく也 中津藩主

御与之 中津藩主

二月

中津藩主

源氏

元村源氏

後中津改

武御名加神

建元

村之

一男

更科

親王

後

中沢少将の位は中沢少将に

幕之收 右内下中楮

幕之收 右内

幕之收 十六日置之幕

中沢少将の位は元三代
中沢少将の位は元三代

右内

幕之收

幕之收

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

中沢少将の位は元三代

後河右納言殿 了乃載信公 乃感出先子 執獲
信長 於 於 於 於 於 於

久英

母 字

妻 於 於 於 於 於 於 小畑 於 於 女
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
後河右納言殿 小十人 但 於 於 同 九 申 年

後河右納言殿 沖中 於 於 後 浪 人 仁

元 保 十 三 年 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於

景貞

母

妻 於 於 於 於 於 於 小畑 於 於 女
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於
於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於 於

不承不承之人持約より至中人能承并
方古也河内勅

淨法云、此為附、西九中人能承、河内勅、
河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

元禄二、三月、三月、三月、三月、三月、
元禄二、三月、三月、三月、三月、三月、

因あり、三月、三月、三月、三月、三月、
因あり、三月、三月、三月、三月、三月、

桂昌院様、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

元禄二、三月、三月、三月、三月、三月、

河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

桂昌院様、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、
自画自撰、河内勅、河内勅、河内勅、河内勅、

年於腰之良之新體其法其月正陰
一 先紀建原其於建者
松河大細其附其勤其子其良其以法
其勤其子其勤其子其良其以法

京林

母 阿野新助女
妻 大藏 清光之妻 政子
妻 中務 清光之妻 政子
妻 中務 清光之妻 政子

元祿二年...
常憲公御代元祿二年...
沖貞見法
...
...
...

二條左及孫中左左番敷之左

妻女

大島 三枝 孫中左左番敷之左 孫中左左番敷之左 孫中左左番敷之左

景隆

母

付之左左番敷之左

孫母 付之左左番敷之左

妻 二左番敷之左

井口 助左左番敷之左

正法公 中左左番敷之左

正法公 中左左番敷之左

中左左番敷之左

中左左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

宣原 二左番敷之左

河見... あり... あり...

皇曆... 三月... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

後

母... 母... 母...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

皇曆... 皇曆... 皇曆... 皇曆...

合

母... 母... 母...

右感合系序身身心江江朝中
由身身身身成身身身身身
二月身身身身身身身身身

某

母 大目

身身身身身身身身身身身

女子

母 大目

女子

母 大目

身身身身身身身身身身身

女子

母 大目

身身身身身身身身身身身

系系

母 大目

身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身

系系

母 大目

身身身身身身身身身身身

同八申年三月廿五日
沙中東光打借合百五拾元酒法
同八申年八月廿五日
江波五幼公持取方十五元持於五每日幾
宣政三年三月廿六日
三波五幼公持取二乃載法
同八申年九月廿五日
五波五幼公持取五元持於五每日幾
宣政三年三月廿六日
三波五幼公持取二乃載法
同八申年九月廿五日

二條五波五幼公持取五元持於五每日幾
宣政三年三月廿六日
三波五幼公持取二乃載法
同八申年九月廿五日
五波五幼公持取五元持於五每日幾
宣政三年三月廿六日
三波五幼公持取二乃載法
同八申年九月廿五日

同日子... 同日... 同日...
同日... 同日... 同日...
同日... 同日... 同日...
同日... 同日... 同日...
同日... 同日... 同日...
同日... 同日... 同日...

女子 ^{十...}
母 女子
...

某 ^{...}
...

女子 ^{...}
母 女子
...

去母

去母

如母

如母

系用

去母 去月

去母 去女

妻 去母

石原村十年正月利女

大系用食次男名正時子妻成女成年

病死後二月系用食次男成女成及安由五

申の月成女也上成女の月成女也

成女元子の力月成女又系用食次男成

成女成女

沖田成女

去母

小系用食次男成女

井口成女

去母 井口成女 高成女

去母 去女

右去母系用食次男成女十月小系用食

次男成女成女成女成女成女成女成女

成女成女成女成女成女成女成女成女

成女成女成女成女成女成女成女成女

成女成女成女成女成女成女成女成女

去母

成女成女成女

去母 成女成女成女

某

母

今九年

乃多利十年 西利女

右之通也

三六而名 孝悌

生也

其居也

内名

五十二

三六而名 孝悌

中河

五十二

申之川

系

友系氏

子七百九

な

申之川

中河

中河

清和源氏

善政 九月七日

中津

善政 日

坂中善政

貞勝

善政

母中津元新進女

善政

善政

善政

甲州河内物...

中津元新進...

新進...

清和源氏

善政...

善政...

善政...

善政...

中津...

善政...

善政...

善政...

善政...

善政...

善政...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も... 吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も... 吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も... 吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

竹内源次郎... 某... 母も母も...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

吾の母も母も... 不坊... 母も母も... 吾の母も母も... 不坊... 母も母も...

清生 後三松外

母 善本氏女

妻 元香卯女 山田吉成之四女

而志子子子生身也

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

清形 力之助 後三松外

母 山田吉成之四女

妻 田安 深谷正源之四女

後妻 中興藩 大石源助之四女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

元香卯女 元香卯女 元香卯女 元香卯女

母 山田吉成之四女

母 山田吉成之四女

清國

カニ助

水島

三松

才

母 深谷氏女

嘉永元年 至同三年 終年 女

享和元年 至元治元年 終年 女

享和元年 至天保元年 終年 女

天保元年 至文政元年 終年 女

文政元年 至天保元年 終年 女

天保元年 至嘉永元年 終年 女

嘉永元年 至享和元年 終年 女

享和元年 至元治元年 終年 女

元治元年 至明治元年 終年 女

清長

孝行 山崎

母 首

嘉永元年 至天保元年 終年 女

天保元年 至文政元年 終年 女

文政元年 至天保元年 終年 女

天保元年 至嘉永元年 終年 女

嘉永元年 至享和元年 終年 女

享和元年 至元治元年 終年 女

元治元年 至明治元年 終年 女

明治元年 至大正元年 終年 女

大正元年 至昭和元年 終年 女

昭和元年 至昭和元年 終年 女

此乃... 入... 氏...

女 乃... 氏...

某 乃...

女 乃... 氏...

如! 乃...

江原 乃... 氏...

母乃

妻 乃... 氏...

乃... 氏...

乃... 氏...

乃... 氏...

某 乃...

母乃

女 乃... 氏...

女 某令幼夫

母 某

女 永年子

母 某

女 永年子 住橋子 住津

某令幼夫

母 某

女

母 某

住津

母 某

住津 住津子

母 某

女 三人

母 某

住津

住津 住津子

住津

住津

住津

三島六三
たよ
三行

申五回
は清方の公

系譜

平氏
は清方の公。堀田公

は清方の公
南条物七郎

平姓

中宗氏

孫也 四子 汝來 曼夕 曼光
曼多 曼光 曼光 曼光
曼光 曼光 曼光 曼光
曼光 曼光 曼光 曼光

中宗氏後代

宗晴

中宗氏孫也

中宗氏孫也

中宗氏孫也

光勝

中宗氏孫也

宗晴

中宗氏孫也

中宗氏孫也

中宗氏孫也

中宗氏孫也

中宗氏孫也

宗久

中宗氏孫也

中宗氏孫也

此書... 月... 川... 極... 書...

元長 南無妙法蓮華經

母... 先妻... 後妻... 柳江... 西... 日... 月...

西... 十月... 日... 月... 日... 月... 日... 月...

香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
石垣守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...

香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...
香取守邦子... 香取守邦子... 香取守邦子...

おとすけのちひさしは江戸に嫁したるよし

女 御前 之 侍 乃 右 女 史 氏 女 史

母 首

元 知

南条のちひさし

母 小 井 氏 女

多岐のちひさし

多岐のちひさし

英治のちひさし

光 徳

母 首

多岐のちひさし

女 母 首

某 氏 女

母 松 澤 氏 女

佐 藤 氏 女

多岐のちひさし

多岐のちひさし

おとすけのちひさし

百九十七年

南条のちひさし

多岐のちひさし

南条のちひさし

五

平
か
ま
な
な
な

後系簿

本上月
三
本
元
后
子
の
由

平氏
○
本
元
后
子
の
由

平氏
三
本
元
后
子
の
由

平氏

南条

先祖酒部守正経公

或部隆家男

九内子相隆

南条

九内子相隆

南条

九内子相隆

或部隆家男

隆政

母嘉子

右記

右記

右記

隆政

右記

母嘉子

右記

隆政

母嘉子

右記

右記

右記

右記

右記

隆政

母小島氏女

妻 隆徳 隆徳氏女

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄二年八月廿一日入大藏

隆徳 中ノ

母唐田氏女

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄二年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

元禄四年八月廿一日入大藏

三原小舟の去月由生也年ノ多可夫其徳
三原小舟の去月由生也年ノ多可夫其徳
三原小舟の去月由生也年ノ多可夫其徳
三原小舟の去月由生也年ノ多可夫其徳
三原小舟の去月由生也年ノ多可夫其徳

隆安

伊織 吉忠 源如

母如子氏女

妻小三原方 福之市方其法信女
元五四年の了りし事其格入去后平下死
元五五年の了りし事其格入去后平下死
元五六年の了りし事其格入去后平下死
元五七年の了りし事其格入去后平下死
元五八年の了りし事其格入去后平下死

新出也万是院 寺淨善院 江海淨院

隆安

次八

母如子氏女

妻小三原方 福之市方其法信女
元五四年の了りし事其格入去后平下死
元五五年の了りし事其格入去后平下死
元五六年の了りし事其格入去后平下死
元五七年の了りし事其格入去后平下死
元五八年の了りし事其格入去后平下死
元五九年の了りし事其格入去后平下死
元六十年の了りし事其格入去后平下死
元六十一年の了りし事其格入去后平下死
元六十二年の了りし事其格入去后平下死
元六十三年の了りし事其格入去后平下死

友原姓

車條

古御冠 薄之 末柴 車條 帯力 別親
酒老 承 存 伝 信

部之叔

了之友

部之叔

了之友

部之叔

了之友

車條 帯力 別親 七男

外務

帯力

母

石心

妻

石心

酒老 承 存 伝 信

年月日 不知

神尾

石心 石心 友 石心 友 石心 友

酒老 承 存 伝 信 石心 友

年月日 不知

新地 伝 信 石心

初政

壬午年

母

乙子

妻

丙子

河内守 乙未 乙未 乙未 乙未

年月日 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行月 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行代 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

初政

壬午年

母

乙子

妻

丙子

河内守 乙未 乙未 乙未 乙未

年月日 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行月 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行代 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

行 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

則江

年子孫

母

妻

江戸名 女

美奈子氏友
市川孫吉氏女

年月日不詳文部多知... 江戸名 女
市川孫吉氏女
江戸名 女
年月日不詳文部多知... 江戸名 女
市川孫吉氏女
江戸名 女

則明

年子孫

妻

妻

妻

妻

武海名 女

年月日不詳文部多知... 則明
武海名 女
江戸名 女
市川孫吉氏女
江戸名 女
年月日不詳文部多知... 則明
武海名 女
江戸名 女
市川孫吉氏女
江戸名 女

同日古の口以友に 行舟
享保元 丙申年 十月十九日 在後西郡
之志 病死 葬此之正法 淨苑
是記 古 五 丙申年 也 之 多 先 子 名 大 子
新 姓 之 古 口 以 友 之 志

別房

初名 信元 後 重 長
母 妻 初 之 後 復 産 田 中 五 子 女
武 安 子 多 如 生 法 公

享保元 丙申年 十月十九日 在後西郡
病死 江 口 以 友 之 志 自 之 志 也
同 子 多 如 生 法 公 也 志 也 也
口 多 如 生 法 公 也 志 也 也
日 十 月 十 九 日 父 令 在 後 西 郡 淨 苑
行 舟 中 多 如 生 法 公 也 志 也 也
同 九 日 甲 辰 子 以 月 十 日 甲 辰 節 當
行 舟 中 多 如 生 法 公 也 志 也 也
也 甲 辰 府 屋 裏 也 志 也 也 日 十 月 十 九 日
甲 辰 府 屋 裏 也 志 也 也

乃純云... 甲府府...

津城勤番法

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

... 甲府府...

表色

母

吾物...

...

年月...

則門

...

母

...

妻

...

...

甲州府中

宣曆四甲戌年正月十日

可成可成辰日色甲府御番

崇徳天皇

丙辰年戌年五月

十日

海内

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

同日在甲府

甲府府内方吉川為平正七郎嫡子
能保法川為平

女子 甲府勤尚 若原正忠の弟彦房為

母 女子

則久 多岐大島

母 女子

貞房 小笠原忠房

母 女子

高房 甲府勤尚の弟高房
貞房の弟高房

則方 九井兼

母 女子

則重 高六

母 山崎七郎の弟高房

妻 甲府勤尚 権左衛門正房の女

甲府文正の弟勤尚の弟高房

高房の弟高房の父高房

高房の弟高房の父高房

高房の弟高房の父高房

則水

細名号... 東京名目...

母

山... 女

甲斐... 内... 氏... 氏...

則吉

友五...

母

大月

則次

法...

母

吉

則希

多...

母

吉

則正

多...

母

...

妻...

甲...

...

同十年二月三日

女子

母 七月

女子

母 七月

三武百儀

甲子年七月

南條

多比元 甲子年七月

南條

四

本より
若江伊加子

一系譜

平氏
三行書
塔田

たよ
平氏

正慶
南条

手付

あふあ氏

あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏
あふあ氏

江戸五内係

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

あふあ氏

口... 隆...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

元鋪 南条...

母首

...

母首

...

母首

...

...

...

...

...

三浦之成子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子

某 守子守子 守子守子

後名 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

後名 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

後名 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子

守子守子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子
守子守子 守子守子 守子守子

葉日多 芳 葉 留 院 常 法 海 石

女 原 子 後 裔 不 原 子 為 法 師 妻

母 首

女 島 原 子 原 子 為 法 師 妻

母 首

女 夫

母 首

後 裔 由 原 子 子 孫

母 首 孫 氏 女

妻 於 勢 甚 早 一 英 女

元 二 年 七 月 初 五 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子

女 夫

母 首 孫 氏 女

妻 於 勢 甚 早 一 英 女

元 二 年 七 月 初 五 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子

元 二 年 七 月 初 五 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子

元 二 年 七 月 初 五 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子 十 五 年 十 月 十 日 生 子 一 子

女 夫 孫 氏 女 妻 於 勢 甚 早 一 英 女

母 首

女 夫 孫 氏 女 妻 於 勢 甚 早 一 英 女

母 首 孫 氏 女

母首
明和元年九月二十日

女
吉印彦左衛門正右衛門

母首
海老名

女
母首

某
母首

後
母首

明和元年申月
吉印彦左衛門正右衛門

後
母首

女
母首

女
母首

女
母首

某
母首

明和元年九月二十日

吉印彦左衛門正右衛門

海老名

母首

母首

母首

明和元年申月
吉印彦左衛門正右衛門

後
母首

女
母首

女
母首

女
母首

某
母首

母音

女大
母音

右ノ母音ノイニ

右ノ母音ノイニ

中央海唇
生動軟音

中央海唇
生動軟音

右ノ母音ノイニ

中央海唇
生動軟音

右ノ母音ノイニ

右ノ母音ノイニ

中央海唇
生動軟音

一系海唇

中央海唇
生動軟音

中央海唇
生動軟音

此年大福御新元如父上后中世教
之御孫氏女御母上白河内如父相
在御孫氏御
皇女御孫氏御

如母 女御 心奉御 德賢妻
母前

隆置 女御

皇太后御孫氏御 皇太后御孫氏御
美日御孫氏御 德賢後 德心御孫氏御

隆篤

母前 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻
德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻
德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻

此年大福御新元如父上后中世教
之御孫氏女御母上白河内如父相
在御孫氏御
皇女御孫氏御
皇太后御孫氏御 皇太后御孫氏御
美日御孫氏御 德賢後 德心御孫氏御
隆置 女御
隆篤 女御
母前 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻
德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻
德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻 德賢妻

五政之...
 五政...
 五政...
 五政...
 五政...
 五政...
 五政...

如矢

母 孫令氏女

如矢

母 首

如女

宛米位程中堂氏
 妻安西八系之佳女

曲測源多子位注

陸

陸

母 首

天明之...
 天明之...
 天明之...

天明之...

天明之...

天明之...

天明之...

天明之...

天明之...



申六りら
少々末之(何)なるか

氏
子三る年三白〇返(何)なるか

系譜

な
お 若
炭 活 坊

存
少々末之(何)なるか
中(何)なるか
由(何)なるか
中(何)なるか
中(何)なるか

元祿御代中興政中
流傍性
亦乃神測海傍トナリ

蕨
幕
流七曜星

智紋
十六葉裏菊

古紋幕
次未記

建所名カ神

家傳建所名カ神トシテ信濃國
浪傍部トシテ浪傍大明神トシテ

年杵御命
亦名八杵命

年杵カ社

建彦杵邦命

大月杵小天皇神武詔四方始謁神武

杵戸部

國足彦

國磨

國魚繼

杵美玉

神功皇后在四訓三韓之時并賀

水波磨

杵建雄

杵連彦

杵田彦

魚香

溯治彦
奉見_ニ欽明天皇_ニ

科_キ杵_キ

御食杵_{ミナキキ}

國杵

源杵

小森磨

米彦杵

雲杵命

宇木杵
後号_ニ宇木色_ニ
杵小嶋

棟杵

豊彦

杵倉

杵小連

景玉杵

雄力杵

高彦

級勝彦

東杵兒

建梨

杵建チノキ

建敦

建胤

建行

杵澤

彦淵

建頼

杵淵チノキ

頼方

始チ号杵淵太郎

建方

杵淵チノキ小太郎

建教

村副太所

建測

村副彦吉

左京亮

甲斐守源滿仲為政警東南甲列
旅都國氏告滿仲曰信列水日
邪戸陰有念心住城鬼^時國氏
法人晉之事甚云滿仲聞之密
戸陰之^所大東色留居^レテ
降部^正御^正集^法士^退城^鬼

之刻予所建測^法士^之職^之陰
既見出^信為賞^叙左京亮

建法

村副吉

左京亮

建元

村副吉

左京亮

下野守

村上天皇^皇四^皇子^{一品}吉部^之親^王

村上天皇^皇四^皇子^{一品}吉部^之親^王

天保^年甲^子河^内守^源於^信有^自乃
法^筋更^科部^所守^信守

之治生各受統中梓淵流訪
 奉新建元賜法生常家命
 故歌王歌令為眼也且言其
 共祀性更元繼一也於天柳始
 祀建御名神初也
 於神戶八鬼命系祀
 梓土地園給土地園之有御系
 之人梓宗祀也對河深劇而号
 梓劇年梓神令對也
 感海也宣下日汝祀異池神

積之由為二編脈一故中次流訪
 源性了為領二卷送一印了為也
 宣而別使二源類信一右一卷入
 奏覽新有勅許於元江中次
 源地似祓被叙從五位下下野
 少乃白野白賜兩村臣親王凱
 河津清文字拜受改清定下
 令賜也異教代梓劇之城主也

下野清泰
 唐年
 乃平亮

下野清輝

年

長依

清定

下野

長依

母平林母信子女

玄蕃院建輝

長依

母系助解子女

下野清輝

長依

左京亮建親

長依

玄蕃院建信

長依

下野清親

長依

左京亮清信

長依

母

石川刑部政子女

下野子類別

三原

信別

野田

右信別殿父信信老及野田村所領
是向在入死二男信別子之所務也
号野田

女子

信別

中在常陸

女子

山

平尾

下野子類別

下野子建親

下原

下野子清通

下原

下野子相通

下原

右相通所領村及公所領代
實人志五郎申之り上向水内郡小川
古山と備之小川左馬所領報之御
番領所屬之下乃原亮為之り向地

合戦の利擲を以て其の功を賞し
其の功を賞し其の功を賞し
其の功を賞し其の功を賞し
其の功を賞し其の功を賞し

感状字

去月今月水内郡小川古山郷
小川今月水内郡小川古山郷
小川今月水内郡小川古山郷
小川今月水内郡小川古山郷

計は儀お高貴にお儀久部古聖為
向存添可し地御忠に保る所
向存添可し地御忠に保る所

寛文五年甲午六月

政國書判

中原方系元左

村之政國公之沖代中以下等
村之政國公之沖代中以下等
村之政國公之沖代中以下等
村之政國公之沖代中以下等

正統
 系於
 遂之
 未用
 日人
 依
 政國
 中書
 給

中書
 沖書
 給

耳
 申
 諸
 年
 林
 右
 府
 通
 高
 入

天
 正
 統
 分
 明

政國
 書判
 給

林
 副
 氏

任
 官
 高
 官
 判

村
 之
 美
 貞
 七
 皇
 子
 具
 年
 初
 長
 男
 從
 一
 位

天口
所屬公孫村 上名部 下名部 上名部 下名部 上名部 下名部

一 村之政國公 沖代文 曰 比甲斐
深氏武 刑 公 備 信 昌 親 目
佐 之 部 令 放 之 於 大 井 系 對 陣 刑
城 之 政 府 主 君 政 令 有 序 也
合 戰 信 昌 親 目 漸 念 陽 野 也 山 之 月
近 所 布 下 取 給 十 七 部 多 由 人 人 移
以 或 由 名 也 計 之 百 余 首 行 捕
以 附 七 曜 大 旗 下 取 給 下 取 給

物 由 人 之 政 令 曰 名 武 而 之 取 給 十
七 曜 之 諸 部 之 間 為 名 例 可 得 之 意 宜
信 之 七 曜 之 自 身 諸 部 之 附 身 之
別 形 也 威 信 之 賜

威 信 字

今 有 甲 列 武 刑 公 之 備 信 昌 將
一 族 不 親 之 刑 布 下 取 給 十 七
一 心 之 以 是 之 候 之 一 錢 子 也 均
臨 利 信 昌 高 以 念 傷 也 意 之 以 計
取 之 布 下 取 給 十 七 曜 之 自 身 諸 部 之 附 身 之

人取百条計捕し敵城の近き堅固
備置公法と感服し武切の備置
質高家相得く大馬平七耀大旗
如多々共或切子と縁とる如
儀の儀は以自守り考者也

文正元年丙戌

改國書判

三月廿日

将副下等者之

本所へ備付列如之とて以所より
自外深幕印習致し附奉申

乃高史文國建

乃高

如子如の事有る自守如

乃高建昌

右國建所 村上政國云云

文正二年六月より甲辰 武田信繩依
久保良村甲辰 城より攻る因部岩
尾ノ城より攻る 皆如 主君 政國
一万二千之人取ると所如 信繩
合戦 信繩 致 城 火 槍 内

已云之底合持事下入村之場言
押是合我之信使親負甲列上座云
村之方之待去約事由言處使死以財
乃多死國是之殿後之信身之志以
財係或切賜大和村并御所之半村
顯國白救心之取切孫中隱者北國
住事之北堅固之守之於不可抽患心
係之少之之列係之者之知良命
別國是之賜感狀

感狀寫

今於甲初武日信使傳久部若村
田若尾為城攻取之令在城之守
子是押着之親之信使親負放
城之去原合和由寺上門入之列
押着之親之武日然於甲列上
川之原其方殿後之身以信使是
恙河府是又中身親死命之勤
少傳抄之玉信之方之責使久於
大和國黃友姓之原日御所之村
是行之年是又其方感武切門系

今列女傳の序

文徳二

一ノリノ...

中治...

一ノ...

一 國運代近代

靈社 勸請

一ノ...

左系丸國事

...

...

上列...

母 吾妻...

...

天文七年...

武田晴信...

更科...

沖原...

...

代役官...

...

西曆年中村と云津元程右大臣
初テ片構と此の位筋南於府中
ヨリリ代々城代と云玉ヲ

只年三リ人嬌と云成年清を

魚國子ハ多科部 料割之持威解ん

其子酒國子ハ以無以之以下

之觸以之北ヨリ嬌子清を

國子ハ子色帰威スル也國子 諸生

重スル為清をヨリヨリ下ノヨリ也

一 天正十六年八月十四日（十一月十四日）小縣郡 上南保屋

野々原村之義山ノ下武田晴法有

今我義清公為軍統常ニ親士ヲ

定至玉ノ道也之千六孫也ハ例

親士上ノ孫也之千六孫一人去義清

ノ孫也

若槻分系也 杵岡分系也

左白一系也 合井系也

右系也 菅白系也

菅白系也 佐井系也

佐井系也 殿内系也

若井豊前守

浪形源三郎

蘇那之云依

三年 浪形

市川戸田也

病障トモくさるる歎天日トモ伸くぬ井

御令入定主玉トモ也大方トモ氏トモ十六物

大なる皇親トモ神印トモ也思皇系

成々ゆトモ梵トモ者トモ後トモ一トモ天トモ守トモ

長者トモ福トモ大トモ人トモ年トモ終トモハトモ出トモ生トモノトモ錫

アリトモ何トモヲトモストモ何トモレトモ乎トモ士トモトトモ非トモ人トモ分

定トモ主トモ玉トモ也トモ蘇トモ那トモ之トモ情トモ信トモトトモ所トモ誠

半軍トモ鷹トモテトモ七トモ曜トモノトモ大トモ了トモ印トモリトモ後トモ也トモ

後トモ義トモ信トモをトモ引トモクトモテトモ信トモ玄トモ張トモ奉トモ

人トモ殺トモ先トモ道トモ速トモ也トモ知トモ玉トモ所トモ行トモ也

ナトモつトモ縁トモニトモ少トモ日トモ若トモ樹トモ乃トモ系トモをトモ將トモ例

乃トモ系トモれトモ人トモ信トモをトモ抽トモ多トモ晴トモ信トモ向トモテ

一文トモ字トモ也トモ抑トモテトモカトモルトモ晴トモ信トモ是トモリトモ也トモ

乃トモ也トモ玉トモフトモはトモ肘トモ若トモ樹トモ乃トモ系トモをトモ情トモ信トモ

久トモ々トモ矣トモクトモ多トモクトモ抑トモテトモカトモルトモ也トモ白トモ身トモ新トモ

身トモ白トモ筋トモリトモ四トモ日トモリトモ若トモ樹トモ乃トモ系トモをトモ本トモ腹トモリ

機トモ実トモワトモリトモ故トモニトモクトモルトモ也トモ是トモ也トモ

由樽園方事也勝信は在令放言は
三方の切二太刀身切せし勝信ノ右ノ
肩之也甲品路樽園より一文を以て
カレ故勝信ノ行進甲加言てハ乞フ
義清下之也勝信ヲ切せし太刀は義清
公ヨリ賜ル北國信國ノ大太刀也二人
カテカテアリ寸延老故也御所表樹カ
居ルヨリ今樽園ヨリ下リ若樹リ行
之ハ吾向ハ勝信ハ後賢細村ト云入
玉フ其日命録云今世月事有村ト

方勝利也或ハ之勝信極度難也
信形ノ村ト云ハ今安中居ル支ト藤
原部助ト云テ計捕故也由事ハ一
度所志百保也奉隆以謀畧
原氏神中も高尾ノ中蔵力也
る事也勝信名カ御心算ト云テ
沖平蔵ト云フ也大目方ト云フハ
陣中ト云名也白ト一河内ノ村ト云リ
實立也故ト云ハ大敗軍ト云リ
事也トナリテト云勝信ノ義清

此の如くは、
其の如くは、
止むを得ず
一、
P
若し
刀
片
大
云

唯、
備、
迄、
カ、
神、
神、
意、
類、
殿、
事、

百奈國を以て人等々押取れ下
之唱々呼カレ國をガ云ク汝ラト雖
此等錢汝ラト可付る也等ガ
主人不代兩宮々不相敵ト也トモ
不兵名ハカテト云テ野を至共ト事
一文等カケ入信國ノ大を信ラテ
事ハ由北ヲ切テ也所々爲カ侍少村
有也所爲深谷トト名有テ汝等

國を以て相向フ國々
下ラテ北村々々下ト北村々々
手ニツカニテ三刀刺通ニ申ハノ
深ニハ投込積海ノイテ是等々
モリヤト云テ境ノ至向ヨリ首ヲニツニ
切割敵モ一同切リタリト云野
武士有テ教々ニ也教ス國々々々唱
今度厚代表大テ來ニ於テ義信
公ノ殿後將倒厚多屯國々々々
使ハレ所民不ト云捨路云々

中野之川、至所、唐橋ト云所、おは
河、西表より野武、至尾ニ、音人押集
系、河、修理、元、は、原、音、等、法、取、二、音、ト、ハ
某、乙、柙、剛、ト、脇、貞、ヲ、史、ト、下、ラ、る、端、ヨ、リ、ツ、テ
昔、病、ヲ、以、テ、家、ヲ、カ、レ、國、を、お、か、す、年、を、お
は、り、討、ト、ス、國、を、お、か、目、ヲ、汝、フ、可、ク、云、ん
ト、下、知、メ、マ、リ、マ、シ、史、ヲ、ニ、リ、お、れ、法、取、二、音、ト、
是、ヲ、見、テ、叶、同、殺、ト、思、原、野、井、ト、也、ト、
ト、大、國、を、お、願、テ、之、を、結、太、力、ヲ、テ、切、之、モ
左、カ、ケ、ケ、レ、ト、云、テ、汝、ヲ、以、テ、お、倒、ト、也、ト、

等、ト、首、ヲ、討、セ、唐、橋、明、神、ノ、宮、ノ、前、
投、捨、布、武、士、臣、ヲ、切、掃、テ、神、及、ハ、死、後、
通、シ、テ、聖、日、神、及、ト、法、列、ノ、塔、義、并、
ト、云、所、ト、云、テ、義、法、公、ト、も、福、大、ト、云、
唐、橋、表、ノ、法、身、ト、云、ん、義、法、公、所、感、
不、斜、國、を、お、願、改、メ、明、勢、ヲ、表、神、列、
列、法、又、ト、再、無、再、通、シ、作、國、を、お、
或、男、位、儀、川、中、を、神、水、奉、り、公、謙、信、
ト、云、中、唐、河、は、三、別、國、を、お、備、前、
ト、云、重、如、元、河、ノ、汗、威、杖、五、段、揚、り、

右川邊列自高去每度渡此法原
亦且法乃以行其或手抄教百人
亦向不其又其力以修寺創坊
堂造亦其卷亦存其是乃其又
明乃其乃其或切其其乃其
向修乃其地其乃其乃其乃其
亦法列亦其乃其乃其乃其乃其
乃其乃其乃其乃其乃其乃其

天文十三年

乃其乃其

乃其乃其

乃其乃其

乃其乃其乃其乃其乃其乃其
乃其乃其乃其乃其乃其乃其
乃其乃其乃其乃其乃其乃其
乃其乃其乃其乃其乃其乃其
乃其乃其乃其乃其乃其乃其

天文十三年

乃其乃其乃其乃其乃其乃其

乃其乃其乃其乃其乃其乃其

乃其乃其乃其乃其乃其乃其

乃其乃其

母書あり

下野守法弘

右法弘

天文十一年より父國子下所村と

和清公より所神没り

天正十一年より六日村と所中 國子

より有りあり 信品川中より所入

山所中 所中

天正十九年 所白川所 國子

の所

廣長寺 信品川 所

所あり 所

右法弘

天文十一年より神没り 所

所 所 所 所 所

天文八年より父國子 所

岩村白川所 所 所

大徳所 所 所 所

所 所 所 所 所

所 所 所 所 所

信玄若老々々智源故村之京管代
より氏ヲ味方ニ引越五ノ依久部ニ有
左方信玄ハ腹ス信玄ノ腹力日ノ一揮
ハ心故義至ノ外未味方ニ寄成有モ
ヨリノ令仰ハ信ノ左方ハ信玄ハ腹ス
天文十一年七月十日甲辰勝心ハ腹ス
五國ノ攻心要信ス信京動成城
火ヲカケ焼掃テ岩村ヨリ信手ヲ一掃
シ龍ハ甲辰勝心ハ腹ス
日七リナラヨリナラシク志望ス信ノ友

城ニ多事新ノ節信毎ク攻レ新ノ節
雖勝武敵ハ大勝方ニシテ亦信ケ御
心任セテ討死ス武田勝志望ス信ノ
焼掃テ信ノ依久部信侍者武田
信ノ腹ス岩村ヨリ信ノ腹ス
右ノ人ニ心寄リ考ニ年ハ信ハ腹ス
信京岩城ノ岩村ヨリ信ノ腹ス
信ノ依久部信ノ腹ス信ノ腹ス
公下信ノ腹ス信ノ腹ス信ノ腹ス
信ノ腹ス信ノ腹ス信ノ腹ス

身命之珍也。以兩國之命。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。
命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。命之。

我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。
我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。我之知。

侍所之任係多事近以書中傳述
知能能妙記之今定以之傳所
今之抄本之書傳或曰之代之書
以言其書以方之書之是即其
必之其書之書之書之其以地
不日其之其之其之其之其
以地之其之其之其之其之其
了無其命之其之其之其之其
是海之其之其之其之其之其
不日其之其之其之其之其

天文丁酉年

少將 爲印

中將 爲印

以付之書箱下其之其之其
右之其之其之其之其之其
之其之其之其之其之其之其
甲品之其之其之其之其之其
入之其之其之其之其之其
丹活之其之其之其之其之其
如之其之其之其之其之其
如之其之其之其之其之其

申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方

申方

申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方

申方

申方

申方

申方

申方

申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方
 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方 申方

天文十五年

信玄

于法

右

日向大野守全庵源守以守人

延元二年六月廿三日

改國之令

有之

意也

守人

守人

守人

守人

守人

守人

守人

守人

守人

守人

友生之居此三人之元身村之靈代
之居也村之於信玄の所居亦

神之下少治信中之色右之人一人質の居と
信命にけりし事然依人質居のハ

甲辰新暦申所部代本多能成り
少治の事未レに事終相成

友野成愛りあき去ト思石の中島
少治の相成り治方二所之世ス

左野の事又少治の事又芋田城人
之中治治りりる事之相成

神名所由の信而治信野之公也少治の事

少治の事三人の事少治の内中之事
治地様少治の事入國中ノ地生

少治の事少治の事少治の事少治の事
少治の事少治の事少治の事少治の事

少治の事少治の事少治の事少治の事
少治の事少治の事少治の事少治の事

少治の事少治の事少治の事少治の事
少治の事少治の事少治の事少治の事

少治の事少治の事少治の事少治の事

神々今度

家原

于件下り物も此を御史に方燭成

家原の方名は使者の病を治す下り物なり

誠之文章曰

此の事は元國信方にお物に成

事候へば是は所内意國事内事

事候へば是は所内意國事内事

知る事候へば是は所内意國事内事

事候へば是は所内意國事内事

氣を合はせし

於事邦信長生害を以て所々防禁

國信出るとおれは言は使は相事及

為る事は城を以て合致し是を

其田歩房もお儒も是を以て出ると

川中流り部屋を以て之を入りて國信

為る事は水内郡を以て科部を以て

中へ回す事候へば是は所内意國事内事

今出仕事候へば是は所内意國事内事

お物に候へば是は所内意國事内事

自分收領ノ事ニ表向附ノ事
川中島村ノ事ニ因信方乃信屋ニ若林
主ノ事ニ信屋ノ事ト云人様中ノ事ニ信
和事年八忠懐ノ事ニ云々

今度信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ因信所
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ

神君
人質ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ
信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ信屋ノ事ニ

之之信之其付由是尾之為願之ハ終
向及法之他種也之於ハ終
之之尾以教信也 中系下

中系下字

今乃信外体之類今由馬之新子也
人質之為相信終焉之信之願若
村向若尾之為教信也 知行之之類
不可之之信之信也

天正十年午

宛康中系下

中系下字

右 所系下 而終之也

一 丈夫之信信信信信信 信信信信信信
信信信信 川井信信信信 信信信信

同信信信信 右系下 若信信信信信

信信信信信信信信信信信信信信信信

信信信信信信信信信信信信信信信信

神信

信信信信信信信信信信信信信信信信

右系下 信信信信信信信信信信信信

切之城に於て又之病中は去るも
所出入行はるは事し事の夕之陽に
海に舟を置きてお入るは常子も自ら
民由りたるはかりやと云ふは有威

車とカコと云ふは事し事の夕之陽に
由りたるはかりやと云ふは有威

金に多し一旬毎に云ふは事し事の夕之陽に
由りたるはかりやと云ふは有威

空下存し海に大と放つて意なきは事し事の夕之陽に
由りたるはかりやと云ふは有威

高橋の山崎のついで高橋の親類も人
物所出の手段江ノ邊を以て捕ら
ぬと望む所は頼朝も自ずから威光ヲ
傳へて權威を振ふ

一 北條氏五ノ川中流に与りて兵科目ト
云ふ所は高橋の室を多ク保衛し置
て兵科目と云ふ所は高橋の室を多ク保衛し置
て兵科目と云ふ所は高橋の室を多ク保衛し置
て兵科目と云ふ所は高橋の室を多ク保衛し置

修加勢の如く高橋の敗軍と名人が集り
少少の端から依りて高橋の敗軍と名人が集り
少少の端から依りて高橋の敗軍と名人が集り
少少の端から依りて高橋の敗軍と名人が集り

神より代士等ノ名ヲ悉ク焚掃ス其由
位著シ給ハル今又人威ハ百倍ニ増シ
責ム故城中トモカシクも其意ハハク
位著シ給ハル今又人威ハ百倍ニ増シ
責ム故城中トモカシクも其意ハハク
位著シ給ハル今又人威ハ百倍ニ増シ
責ム故城中トモカシクも其意ハハク

格道印テカレ其ノ事申列ナリ
ク色年ヲ首中テ以故言自中やうハ
大ノ月ハ名ノ事ナシハ其ノ久ハ意ノ事同名
了白我事ノ事野武ノ事也故テ事ナリ
野武ノ事申列故テ打カケ勿然然ニテ
亦教ノ事申列也教ノ事ノ事自之ハ不
事ハ野武ノ事ナリ也故テ事ナリカ事ナリ
事ナリヤガテ事ナリ事ナリ也事ナリ
事ナリ

而ノ事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也

神ノ事ナリ也事ナリ也事ナリ也

事ナリ也

神ノ事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也
事ナリ也事ナリ也事ナリ也事ナリ也

入る事ハ後々三田安房守幸田由
務三田城ニ攻ル所然レ共下加勞
信成安村岡安房守幸田由志向
幸田由幸田由安村岡安房守幸田由志
賀八向ツ見テ安村岡安房守幸田由
仲リ所ツクニ信成安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由

志向是ヨリ通ル勢極大シカケ安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由
安村岡安房守幸田由安村岡安房守幸田由

一

那由志聖三乃中北條乃其孫相
相傳者古中ノ原ノ子 以村田城
城ノ精利ノ城

那由志ノ城乃 加那屈主乃其孫
那由志乃其孫 人合住乃田口ノ城乃其孫

力ノ其乃其孫乃其孫乃其孫
城ノ城又中ノ城乃其孫

中ノ城乃其孫 尾川乃其孫

川乃其孫乃其孫 田川乃其孫

信田乃其孫 河乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫
乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

那由志ノ城乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

乃其孫乃其孫乃其孫乃其孫

信濃國白河新足

天正十一年丁酉九月五日
城月押参攻破之為多
川井等其甚及信濃
野等至百餘下
切捕事其故之百餘
一編之治此大倉
任氣多付幸田信
り師之於甲辰
初年九月八日

其節信濃國信濃縣妙長

上田守玄宗

天正十一年丁酉九月五日
知事之所所
備中六中場
押参攻破之為多
致之故
中老運丁
中九回致
獲之由

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

神君は古蹟跡を以て其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す
其の神位を以て信す其の神位を以て信す

子名

如生年身月日

少字

五音右助

母 能安

妻 阿茶

三子

三子市所建定

各物

三子市所建定

如生年身月日

少字

仁右助

茂右助

如生年

小左彌

合名也信正

猪右也

貞吉也

右貞吉也徳年号月日の子也此為國朝石蔵
仙居也子也母也女成也當時少也
一何如也

徳吉也

在徳吉也徳年号月日の子也此屋居也西意
地也吉也右也左也公相也中も高月百也
中も鳥也相也也也
父也徳吉也清也徳也右也也 清正也
中も吉也吉也吉也田也徳也中も吉也吉也
吉也吉也吉也吉也吉也吉也吉也吉也
徳吉也 中も吉也吉也吉也吉也吉也吉也
亡也又遺也也徳吉也
天正七年月日の子也再吉也田也也

所由を以て御位を授けし首多捕
借書長行信一康國威武功二千七堂文
書御書

右借長行信一康國威武功二千七堂文
書御書

書御書
長行信一

長行信一
書御書

三小井

合之所也其文

右之他也其文
三小井

天正元年
三月

中江田
書御書

父清季
書御書

信成
書御書

天正八年春書之

神皇正統記の巻之八 世居の信品と 秀吉公に
 命ぜられたる御事 幸而御國に 三刻
 御楚歌をとりまゝ 原國に御居り
 嫡子石見守原守 御誓り候に
 慶長三年 幸而原守 御國に御居り
 之御事 仁奉り相成り 心多う切由合
 及御事 打ちまゝ 御誓り 御居り
 只御事 原守 御事 切智し 文 御事
 道華院 御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事
 御事 御事 御事 御事 御事 御事

書寫之の法は信長其由及所より書附
津川金藏より法書用之と云ふ而も其切
之を以て之より一尺餘に收るる由記
所信指化
元弘七年五月廿八日病に付其年終
五劫より法書外決道法書撰年一紙
書寫すべし

親直の遺願

母 雅女下り成りた

法書

書 少林寺に在る娘
右身は其何物の人下り成りた
寛永十七年正月十日解田島子系
病に付其年終より法書撰年一紙
書寫すべし

七代書春綱

母 子系

寛永七年の事

十代文親亮

母 右りのり

女子 官得考ノ題書

母ノリ

右邊田原内ヨリ於此後何物
誰ノ故ナリト云フ

女子 福川ノ書

女子 母ノリ

右邊田原内ヨリ七章ヨリノ父
ヨリト云フ其ノ旨何也

此書於何處ニ於此後何物
如又何處ニ於此後

慶長九年申酉年ナリ

ノ事ハ何處ニ於此後

是ノ如クナリ年々及後

田原ノ事ナリト云フ

右邊田原内ヨリ何物ナリ

ノ事ハ何處ニ於此後

是ノ如クナリ年々及後

田原ノ事ナリト云フ

大
夏の初め其の官人の位に正年及んぬるは
亦曾存りて中人位に初らるるは其の永
九三申年止りて之に在るは西拂の服
以て之を知るは存りては僅かに其の

惣書景貞

右書景貞久しに存りて其の公事
村に在るは其の官人の位に正年及んぬるは
亦曾存りて中人位に初らるるは其の永
九三申年止りて之に在るは西拂の服
以て之を知るは存りては僅かに其の

四

桂昌院存りて其の官人の位に正年及んぬるは
亦曾存りて中人位に初らるるは其の永
九三申年止りて之に在るは西拂の服
以て之を知るは存りては僅かに其の
亦曾存りて中人位に初らるるは其の永
九三申年止りて之に在るは西拂の服
以て之を知るは存りては僅かに其の

高野山に於て... 此の書は... 高野山に於て... 此の書は... 高野山に於て... 此の書は...

夕子

母

少時... 母

高野山に於て... 此の書は...

夕子

母

高野山に於て... 此の書は...

夕子

母

高野山に於て... 此の書は...

高野山に於て... 此の書は... 高野山に於て... 此の書は... 高野山に於て... 此の書は...

此は乃の存ありては其の文を以て
揚々と言はれり有りて其の
計は乃の存ありて
寛永九年三月二十一日上
大御方の御書に
折る由は御書に
是よりありて
御成は乃の存ありて
乃の存ありて

表
乃の存ありては其の文を以て
揚々と言はれり有りて其の
計は乃の存ありて
寛永九年三月二十一日上
大御方の御書に
折る由は御書に
是よりありて
御成は乃の存ありて
乃の存ありて

竹表... 一 伝... 年... 年...

大... 下... 部... 村

... 何... 又... 何... 田...

善... 心... 意...

女子

母

女子

母

右... 亦... 持... 少...

抄物五巻ノ下

室町三十二年三月九日

幕府様御事

此ノ如ク仰申上ル所ニ

女子

母

古川

海井玄菫娘

深助存良

妻

古川

海井玄菫娘

此ノ如ク仰申上ル所ニ

室町三十二年三月九日

幕府様御事

此ノ如ク仰申上ル所ニ

室町三十二年三月九日

幕府様御事

此ノ如ク仰申上ル所ニ

室町三十二年三月九日

幕府様御事

此ノ如ク仰申上ル所ニ

神戶之旨 伊丹之條 二十一年六月
其七 大田 西之目 西之目 西之目 西之目
少之 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤
ナリ 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤

定文 七 五 年 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

新庄之更身

母 浅井 喜由女 八十七

書 倉橋 喜由女

源 喜由女 長

母 喜由女

右 喜由女 長 一 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女
喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女
喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女

源 喜由女 長

母 喜由女

右 喜由女 長 一 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女
喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女
喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女 喜由女

源 喜由女 長

御心持三條公俊の御書物
之御書物二年の御書物
御書物九年の御書物
御書物十年の御書物
御書物十一年の御書物
御書物十二年の御書物
御書物十三年の御書物
御書物十四年の御書物
御書物十五年の御書物
御書物十六年の御書物
御書物十七年の御書物
御書物十八年の御書物
御書物十九年の御書物
御書物二十年の御書物
御書物二十一年の御書物
御書物二十二年の御書物
御書物二十三年の御書物
御書物二十四年の御書物
御書物二十五年の御書物
御書物二十六年の御書物
御書物二十七年の御書物
御書物二十八年の御書物
御書物二十九年の御書物
御書物三十年の御書物

御書物三十一年の御書物
御書物三十二年の御書物
御書物三十三年の御書物
御書物三十四年の御書物
御書物三十五年の御書物
御書物三十六年の御書物
御書物三十七年の御書物
御書物三十八年の御書物
御書物三十九年の御書物
御書物四十年の御書物
御書物四十一年の御書物
御書物四十二年の御書物
御書物四十三年の御書物
御書物四十四年の御書物
御書物四十五年の御書物
御書物四十六年の御書物
御書物四十七年の御書物
御書物四十八年の御書物
御書物四十九年の御書物
御書物五十年の御書物
御書物五十一年の御書物
御書物五十二年の御書物
御書物五十三年の御書物
御書物五十四年の御書物
御書物五十五年の御書物
御書物五十六年の御書物
御書物五十七年の御書物
御書物五十八年の御書物
御書物五十九年の御書物
御書物六十年の御書物
御書物六十一年の御書物
御書物六十二年の御書物
御書物六十三年の御書物
御書物六十四年の御書物
御書物六十五年の御書物
御書物六十六年の御書物
御書物六十七年の御書物
御書物六十八年の御書物
御書物六十九年の御書物
御書物七十年の御書物
御書物七十一年の御書物
御書物七十二年の御書物
御書物七十三年の御書物
御書物七十四年の御書物
御書物七十五年の御書物
御書物七十六年の御書物
御書物七十七年の御書物
御書物七十八年の御書物
御書物七十九年の御書物
御書物八十年の御書物
御書物八十一年の御書物
御書物八十二年の御書物
御書物八十三年の御書物
御書物八十四年の御書物
御書物八十五年の御書物
御書物八十六年の御書物
御書物八十七年の御書物
御書物八十八年の御書物
御書物八十九年の御書物
御書物九十年の御書物
御書物九十一年の御書物
御書物九十二年の御書物
御書物九十三年の御書物
御書物九十四年の御書物
御書物九十五年の御書物
御書物九十六年の御書物
御書物九十七年の御書物
御書物九十八年の御書物
御書物九十九年の御書物
御書物百年の御書物

り年より多し 源氏... 作... 系... 金... 市... 葉... 院... 相...

三十一歳年より七十九歳

源助様長

左

系

美母

余信西三河女

実父

中込原御持良

実母

少林之御直女

書心

源氏系所存助友女

女

母あり

源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女... 源氏系所存助友女...

月長少の表使下

源氏系所存助友女

正徳三年二月十日

懐徳庵

其間所及利敷仕女月夜中二十五年

少知り月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

月夜仕女

月夜仕女月夜中二十五年

右兼左衛門正徳三年二月十日

喜三郎

母 乙卯

其間所及利敷仕女月夜中二十五年

月夜仕女月夜中二十五年

女子

母 乙卯

其間所及利敷仕女月夜中二十五年

利根姫君御中

其間所及利敷仕女月夜中二十五年

有信流標評式

又利乃乃... 信流標評式

享保七年... 信流標評式

信流標評式

享保七年... 信流標評式

寛保三年三月廿五日
左藤直恒

左藤直恒
生年未詳

母 源美之所著如女

寛保三年三月廿五日
左藤直恒

嘉 左藤直恒
中川市志

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

左藤直恒

寛保三年三月廿五日
左藤直恒

右左藤直恒

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

源美持長
少著信
源美持長
少著信
源美持長
少著信

宝曆三年年六月廿七日

右

母

右

高代 云云

法

門

而

法

一

台徳公

有

相

新

右

一

信

信

其

の

中月之世

又深曲將長少輩所經彼輩長年所記
之良部也彼等之室二層中層在平八日
十三年少輩所記相与平八日仁務村
地多在此和室皆平八年年才後病
部之文之所記乃既野島津所行
同十三年未年八月十八日
此之亦在滿州
舟子之如後者由一新海軍為其
洋船在平八日一層備有以之
治政公中代云以元年每平 津助將長新

山邊他石次之如能之長九月十日
病死所記

以平八日平八日源由將長滿載平八日
相與周防多如之如後

以平八日平八日少輩所記但如國子正
三如後

以平八日平八日健月之

以平八日平八日如後

以平八日平八日如後

以平八日平八日如後

三如後

吾前爲建敬

母

中川右馬助忠平女

妻

天保八年辛卯年七月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生

次節者

天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生
天保八年辛卯年正月廿三日申時生

徳川幕府の御用書
同九年九月五日
新上進月
戸田重吉
寛永九年
治承元年

同九年九月五日
治承元年
寛永九年
同九年九月五日
治承元年
寛永九年
同九年九月五日
治承元年
寛永九年

山左海射 上野人射手也如及也
三友自必之
同日二年七月廿六日山左海射也海射
作海射之儀長後防於中前於
少殿野馬日勝也
日年七月廿八日同人支院之儀虎
騎射 上野人射手也如海射也
石左海射也如海射也
令如及海射也
日八海射也如海射也
上野人射手也如海射也

同十年年 七月廿八日同人支院之儀
海射 上野人射手也如海射也
石左海射也如海射也
令如及海射也
壬子和元辛酉年三月海射也海射也
能之海射也海射也
上野人射手也如海射也
建所各乃神也如也七後代地也
言不智也海射也如海射也
寅人海射也 壬子年七月廿八日同人支院之儀

小吉郎 折濟

母

古島 中洗海三平 氏外

寛政七年六月 初津佐屋家 有

内之由

母

日乃 氏

瑞皇後十六系 素若菊 幕布印七曜星

右之由 弘平所 あり 素若菊 志多

免之 あり

素若菊 氏

素若菊氏 下世 守下 中 乃 氏

小吉郎 元服 乃 系 免下 中 氏

外 柙 同 系 乃 氏 之 氏

更科 郡 柙 園 之 氏

高五万石余

柙 園 下 野 守

寛正 之 氏 乃 器 科 更科 郡 大 氏

城 津 順 氏

村 上 乃 氏 智 美 我 清 氏 乃 信 列 十 氏

城 後 魚 沼 郡 蹟 城 郡 一 郡 上 氏

五 妻 郡 一 郡 之 因 之 乃 氏 乃 氏 出

陣 之 時 乃 旗 下 子 乃 守 下 進 守

之 孫 之 孫 乃 旗 頂 柙 園 下 守

石見人長三郎河

右ノ通中ノ内

更級郡ノ内

小栗 横山 塩原 大塚 原 高野

大塚 松尾 兼原 石川 河内 今丸

山形 酒井 川井 石井 石井 石井

酒井 川井 石井 石井 石井

後藤 吉原 徳丸 石

今田 石見 河内 河内 河内

石見ノ通中ノ内

石見ノ通中ノ内

格別酒房ノ内

格別酒房ノ内

格別酒房ノ内

村上政國公

村上政國公

村上政國公

村上政國公

村上政國公

再々示不代頼頼當新製任所
 古製、修以三所、
 去文二年一月口、
 海如、
 柱、
 御鏡 壹ツ
 若壁隠元禱所、
 小キ木魚 年話
 常憲、
 蘆葉達 戸御懸物
 柱、
 此、

此、
 御鏡 五竹助
 倭藤之繪卷 三卷
 撰信筆
 御子物 三幅對
 御對立 壹ツ
 右之品々、
 新九、
 瀨、
 小、
 石、

右之亦之新持行也

右之也口也

三石石之流因 本國法法 以領自領也 表之能何

寅人及上之原申年 中澤市前會

居判

